

藤沢

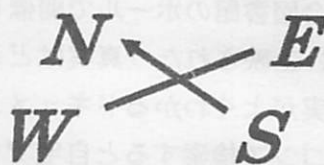
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2013年3月1日

第226号



- 主・石けんを使いましょう
 な・「真実はどこに」と吉田さんのお話
 記・堆肥化センター中止の雑感
 事・「アカデミズムは原発災害にどう向き合うか」

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

いのちの水を守るため、石けんを使いましょう

あの忘れることの出来ない東日本大惨事から丸2年が過ぎようとしています。復興は実際のところどうなっているのか…まだまだ不安は尽きることなく新たな問題が噴出しているのではないのでしょうか。

私は30年余り「合成洗剤は使わず石けんを使いましょう」と、石けん使用推進の活動を続けてきました。しかし、あの惨事以来ずっと「いのちを守る」「水を守る」このこと、これからどう進めていこうか、改めて自分自身に問いかけているのです。

大震災後(2011年4月20日～2012年3月)掘られた井戸の数は20,000本。この数と理由に衝撃を受けました。放射性物質は地表数センチに止まるため地下水は影響を受けにくい、という理由から掘られたということです。また、ペットボトル水の市場が急成長し、家庭用宅配水サービスも急速に売り上げを伸ばしたということです。これは国内外の地下水が大量に採取されていることであり、世界の水事情に大きな問題につながっていくことでしょう。溪流さえも汚染されているという警告もあり今後地下水にどんな問題が起きるか、そして「飲み水を買う」という意識が当たり前になっていくのか、不安を感じます。

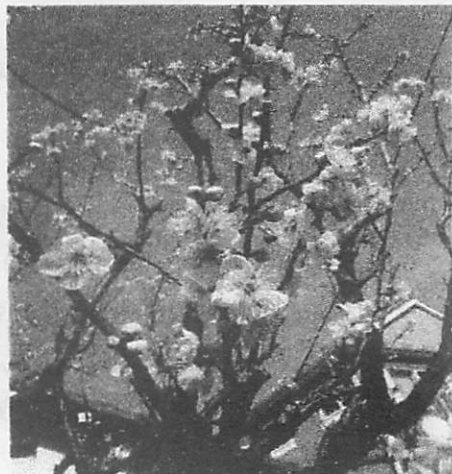
地球温暖化で氷河の後退、氷山の融解などの現象などから真水(淡水)の確保が案じられている上にさらに地下水の汚染や枯渇が重なっていくとしたら、これは何と表現したら良いのでしょうか。

地球は青い星、美しい星、水の惑星などといわれています。地球上の水の97.5%は海水、人や動物は海水を飲むことは出来ません。2.5%の淡水も氷山や氷河、氷塊として存在して、凍っていないと利用できるものは湖、沼や河川、表層の地下水などで地球全体の0.01%という僅かの量になるのです。この貴重な水を陸上のあらゆる生物が必要としているのです。

水はグローバルな視野で語らなければならないことがはっきりしています。でも人の命は日々の暮らしの中で育まれています。人々の暮らし方こそが「いのちを守ること」ができ「水を守ること」ができると確信します。

水を飲むそして、炊事洗濯、洗面トイレ、お風呂、掃除など生活のあらゆることで水を使う私たち、汚れ落としのその排水に責任を持たなければならない。有害な化学物質で汚染した水を自然界に戻すことはしてはいけないことでしょう。有史以来安全安心の保障されている石けんを使いましょう。

広い視野を持ちながら自分の足元もしっかりと見る、地球最後のお客様と言われる人間として生きるために。(手塚弘子)



見ごろになった梅の花

「真実はどこに？」&吉田さん講演

1月26日に総合図書館のホールで開催したこの催しは満席になり、上映された「真実はどこに？」の知らなかった事実がよくわかるドキュメンタリー映画でした。パソコンで検索すると自宅でも見られるとのこと。内容はWHOとIAEAとの癒着の関係です。チェルノブイリの原発事故の対応と被害を告発しています。

吉田邦博さんは福島で原発事故の被害を出来るだけ無くす「安全安心プロジェクト」の活動をしておられ、お話は福島（南相馬）の今の生活環境汚染調査をし、放射線量が高い状況を話されました。管理区域にはA～Dの区分があり福島の殆どはいちばん高いD区域に当たり《酸素ポンベを着けた防護服の着用》が必要とされる区域ですが、装備を着けていません。洗濯物の放射線量が高く、内部被爆につながることや、甲状腺への影響が多いことなどを話されました。

感想文は参加者から多く寄せられましたので、一部を紹介します。

◎ 3.11以降でもいまだに原発の安全神話を信じている人たちが多くですね。何ごともなかったことにしたい、今後何事もないはずと思っていたい。

「見ない」「聞かない」「話さない」そんな人々の気持ちも分からないこともない。しかし、そんな人々に「真実を伝える」手段を私にも出来ることはないかと考え続けています。今日のお話はその手段の1つ、たくさんの資料をいただきました、できることなら、もっと多くの人たちに吉田さんの話を聞いて欲しいと思いました。大変ありがとうございました。

◎ IAEAの実態は余り知られていないので貴重な映像だと思った。

・除染の話が聞けてよかった。

・ヨコスカには原子力空母と核燃料加工工場があります。地元で地道に脱原発やりたいです。

◎ このような企画をカンパはあるものの無料で開いて下さりありがとうございました。除染が効果がないと知ってびっくりした、衣類の汚染もショックでした。

◎衣類の話でよくわかりました。室内でも被爆し続けるように子どもを置いていけないですね。

室内服を用意しないとダメなんですね。

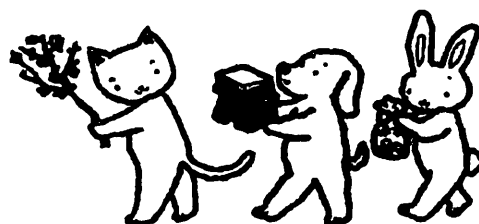
◎福島の実事を知ることが出来ました。胸痛みましたが、私たちに出来ることは…さらにその思いが大きくなりました。この悔しさを忘れないように。

◎吉田さんのお話を聞いて福島は「放射能管理区域」と指定（どこで線引きするかは…）し居住を制限すること、とりわけ子どもたちは「学童疎開」をすべきではないかと感じた。放射能汚染と向き合わなければならなかった今日、私たち一人ひとりが科学的知識を学び、賢くならなければならぬ。そして、市民がつながっていかなければならないと考えました。

◎映画はなるべく多くの機会を作って多くの人に見てもらふべきです。そしてこれは日本の現状と全く重なっています。むしろ、日本の方がこの討論ほどはっきり現れないでごまかし、時効などのあいまいさに巻き込まれそうで怖いです。政府、メディアを強く監視して国連にも市民がもっと働きかけて行きましょう。吉田さんの詳しいお話で私の危惧が当たっていることを痛感しました。

◎PC、youtubeをさがしてもう一度見ます！日本政府、経済界のひどさに哀しいばかりですが、チェルノブイリも同じだったのですね。生命、子どもの未来が一番大切だということに！洗濯してもダメだということ驚きました。どうしたら良いのでしょうか？子どもたちを、これから生まれてくる子どもの生きる権利を切望します。貴重なお話をありがとうございました。

◎放射線被害はすべて平等に受けている現在だと思えます。結果は「裸の王様」で将来が明らかにしてくれるでしょう。人々の復興にできるだけ協力するのみです。



「堆肥化センターの事業中止＝その後の課題」
を読んで

エコネット 225 号に掲載された小林麻須男氏の御意見を讀ませて頂き、全く同感でした。

建設前から過半数の地元住民の反対があり、議会での論議も中途半端なまま強行に進められたこの計画は、私達が指摘した通り 1 年で臭気問題を引き起こし、2 年で経営難に陥り僅か 3 年で破綻しました。

小林氏のご指摘通り、これは藤沢市の単独事業としているものの、実は国の通達事業であり、県の主導のもとに藤沢市が指導されてきた事業なのです。

私達は事業計画を知ってすぐさま、農水省と直接交渉を持ち（2004 年から数回）、本当に畜産農家や耕種農家にとってより良い様々なオルタナティブも提示してきました。しかし、国の「造りたい。」という意向は強く、関東農政局・県を通じ藤沢市を指導してきたのです。県の担当者からも、数回に渡って話を聞き・交渉に当たりましたが、県は水面下で畜産農家と交渉を行う等、国の言う通りにしか動きませんでした。また、奥村組他関係会社にも警告書を送りましたが、何の反応もありませんでした。

住民の中に、堆肥の専門家もいましたし、機械の設置に詳しい人もいたので、その情報を詳細に伝えたにもかかわらず、最初から「建設ありき」で走っている当時の藤沢市経済部長及び農水課の担当者は聞く耳持たず、説明会では「文句があるなら、直接言いに来い！」と脅される一場面もありました。

市職員は、服務に関して上からの命令（例えば、「畜産環境総合整備事業実施要綱・要領の制定について」という形で下りて来る）に縛られる事もあるでしょうし、財政的に補助金という餌に飛びつきたくなる事もあるでしょうが、地方公務員が一番大事にしなければならないのは、市民の側に立ち・市民の代弁者になることではないかと思ひます。現在は、当時の担当者でない職員が、彼らの尻拭いに奔走している訳ですが、是非堆肥化センターの事業失敗の教訓を学んで欲しいと願うばかりです。

小林氏のおっしゃる通り、藤沢市が国や県に対して“ハッキリともの申す”事ができて初めて自立した自治体と言えるのではないのでしょうか。

（鹿島佐貢子）

シンポジウム「アカデミズムは原発災害にどう
向き合うのか」 雑感

昨年 11 月 23 日東大で開催された「甲状腺被曝をめぐる放射能リテラシー：福島原発事故後の子どもの健康をめぐる」の公開講演・討論会の後、すぐに次の東大でのシンポジウムの企画の相談がはじまった。

原発事故以降、科学への信頼は失墜した。日本社会は混沌の中にある。その混沌を生き抜き、今後の日本社会が歩むべき道をさぐるシンポにしたかった。対立関係にある科学者や医師達を招き討論させたいという点で意見は一致したが、さすがに、山下俊一氏を呼び出すのは無理だろうと考えた。私の頭には二人の人物が浮かんだ。

南相馬市で活動する医師と市民、この二人の人物は 2011 年の夏頃から気になっていた。一人は「除染は無理だということを証明するために除染している。」と『子ども全国ネット』のミーティングで発言した市民。もう一人は、南相馬で医療活動をはじめた若い医師である。若い医師がそういう所に派遣されたと聞いて、私は大変に驚いた。汚染地に若い人は入るべきではないと発言していたのだから。それでこの医師のことが気になっていた。

南相馬で内部被曝は問題ないと彼が発言を始めたのは、昨年の夏だった。松戸まで出かけて私は坪倉医師の講演を聞いていた。一方、市民である吉田さんは計測を通して研究者顔負けの活動をはじめていた。南相馬という同じ場所で異なる活動をしている市民と医師の顔合わせは、興味深いのではないかと、そう思って提案した。坪倉医師とつながりたいという思いも強かった。現場の医師たちとつながることは大切である。現場でしか把握できないことばかりなのだから。どうにかして南相馬から「復興よりもまず子ども達の避難を」と声を上げてほしかった。

さて、結果はどうであったのか、シンポジウムは端緒にすぎない。これからである。これから意見の違う人達の交流がはじまると私は思っている。

（須藤百合子）



春の ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南

支援のお願い

春休みに福島の子もたちを湘南に招き、自由に遊んで楽しんでもらいたいのので、夏休みに続いて第2回を企画しました。放射能はなかなか消えません。少しでも長く湘南で過ごしていただき、放射能の影響を少なくしたいとの思いで取り組んでいます。昨年夏と同様に、皆さまの厚いご支援をお願い致します。

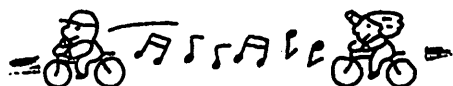
今回は4泊5日ですが、移動時の見守りや案内、車の運転、荷物運搬などお手伝い出来る方はお申し出ください。

日程 3月27日(水)～31日(日)
27日、28日は江の島に泊まり、歓迎会もあります。29、30日は子どもの国に宿泊します。

3月6日 18:30-市民活動推進センターにての相談会にご出席下さい。

主催：福島の子もたちとともに・湘南の会
連絡先 電話 090-5099-4264

FAX 0466-87-4922 青柳



放射能測定値

◆畑の土 (市に持ち込み計測)

茅ヶ崎市堤 地表 1/29

3242 Bq/Kg

同所 地表より30cm地下 1/31

7.75 Bq/Kg

◆ゆず 鶴沼海岸(庭) 1/31

検出数値なし

◆空間 (HORBA RadPA-1000)

2/18 (雨)

桐ヶ谷公園 滑り台下 0.054 μSv/h

〃 多目的広場 0.058 μSv/h

〃 水道のそば 0.065 μSv/h

2月27日 (晴)

円行公園 梅の木の下 0.044 μSv/h

ECONET INFORMATION

311から生きる知恵 イマジン湘南まつり

(「脱原発」の意思を持つ個人のネットワークです)

3月10日(日) 10:00-16:00 雨天中止

サンパル広場に集合→お散歩デモ→遊行時

会場の遊行時ではフードブースや展示・ライブ

物々交換・ワークショップなどいろいろ!

主催/問合わせ: ヘッコー谷 82-1702

「我が家の地震対策」

経験に基づく生きた地震の備えや減災について

学びます 5回シリーズ 1回1000円

2/2～13/21 毎木曜日 18:20-20:00

3月7日 屋内の安全・減殺処置

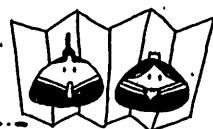
3月14日 安全な避難のために

3月21日 避難生活を楽しくできる準備

場所 かながわ県民センター11階

主催 湘南ふじさわシニアネット

申込み FAX 0466-52-5578



「モンサントの不自然な食べもの」

映画上映は 神奈川県母親大会分科会

4月20日(土) 10:00- 藤沢市民会館

大会費用のほか映画協力費300円

主催/問合わせ 実行委員会 045-641-8815

藤沢エコネットから

会費・購読料の納入お願いします

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 万 〆 〆 〆

(従来の振入方法も利用できます)

会員募集=年会費・購読料→3000円

事務局会議 3月13日(水) 14:00～

市民活動推進センター

《編集後記》2011年3月11日から丸2年、東日本大震災による津波被害、原発被害から住民はどれだけ復興しただろうか。巨大な復興予算は全国のインフラ整備、除染に重点がおかれ、住民の生活は未だに仮設住宅のままとするのは、本末転倒ではないだろうか。福島原発事故後、再稼働、原発輸出に動く政府。「脱原発」は日本人過半数の良心である事を忘れまい。(A)